

2024

みずほフィナンシャルグループ

統合報告書

ディスクロージャー誌 本 編

2023.4.1 - 2024.3.31

“変化の兆し”を大きな潮流に

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

この1年で生まれてきた“変化の兆し”。
その“変化の兆し”を大きな潮流にしていく。
豊かに実る未来の実現に向けて、
私たちは挑戦し続けます。



タウンホールミーティング・拠点訪問



MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023

© JFA



「ブレイキン」ダンサー Shigekix選手 社員イベント



みずほGCEOチャレンジ



WALL ART PROJECT



〈みずほ〉お米プロジェクト



Forbes JAPAN 〈みずほ〉150周年記念特別号制作



〈みずほ〉創立150周年を記念し、ForbesJAPAN 〈みずほ〉150周年記念特別号を発刊しました。
 パーパス「ともに挑む。ともに実る。」をテーマに、日本社会およびグローバル経済の発展のため挑み続けてきた
 〈みずほ〉の姿を特集しています。ぜひ、ご覧ください。
<https://www.mizuho-fg.co.jp/company/policy/ci/forbes/index.html>



〈みずほ〉の企業理念

Mizuho's Corporate Identity



パーパスに込めた思い

日本初の銀行である第一国立銀行。〈みずほ〉の源流の1つである同行が発足した1873年から150年が過ぎました。グローバル化の質的变化、ESGへの急速な意識の高まり、テクノロジーの進展に伴う社会変革、少子化・高齢化の加速等、時代はますます不確実性を増し、過去の延長線上に未来への解はありません。そんな時代を切り開いていくために、日本、そして世界には、多くの挑戦が求められています。これからの私たちは、あらゆる人々と関わり合いながら、これまでの常識を超える解をこれまでにないスピードで創出しつづければなりません。

〈みずほ〉には、渋沢栄一、安田善次郎等数多くの先人がフェアでオープンな姿勢と先見性をもって、社会経済の発展に挑んできたDNAがあります。そして、現在の私たちには、だれよりも変化に先駆け、新しい価値を生みだそうとする熱意があります。こうした背景や思いを踏まえ、〈みずほ〉は、「ともに挑む。ともに実る。」をパーパスとして掲げています。

それは、お客さま一人ひとりの夢と希望に向かう挑戦に寄り添い、金融やコンサルティングの力で幸福な人生に貢献すること。それは、新しい技術や事業へ挑む企業に、他企業との協業や、事業・金融面のサポートをしながら、サステナブルな社会に向けてともに歩んでいくこと。そしてそれは、〈みずほ〉で働くすべての人がつながり合い、日々新たな視点で変革や改善に取り組み、未来を変えていくこと。

お客さまの挑戦を支え、自らも変革に挑戦しながら、豊かに実る未来を共創していく。その決意を新たに、私たちの思いをこのことばに託しています。

編集方針

本誌は、〈みずほ〉がどのようにお客さまや経済・社会とともに価値を創造していくのかを、ステークホルダーの皆さまに簡潔に分かりやすくお伝えし、コミュニケーションを深めるために発行しています。

本誌における記載内容については、みずほフィナンシャルグループにおける、社外取締役も出席する取締役会や監査委員会への報告、またディスクロージャー委員会での適正性確認の審議を経て、最終的に執行役社長が決定しています。

本誌を通じて、「フェアでオープンな立場から、時代の先を読み、お客さま、経済・社会、そして社員の〈豊かな実り〉の実現」をめざす〈みずほ〉を、より一層ご理解いただければ幸いです。



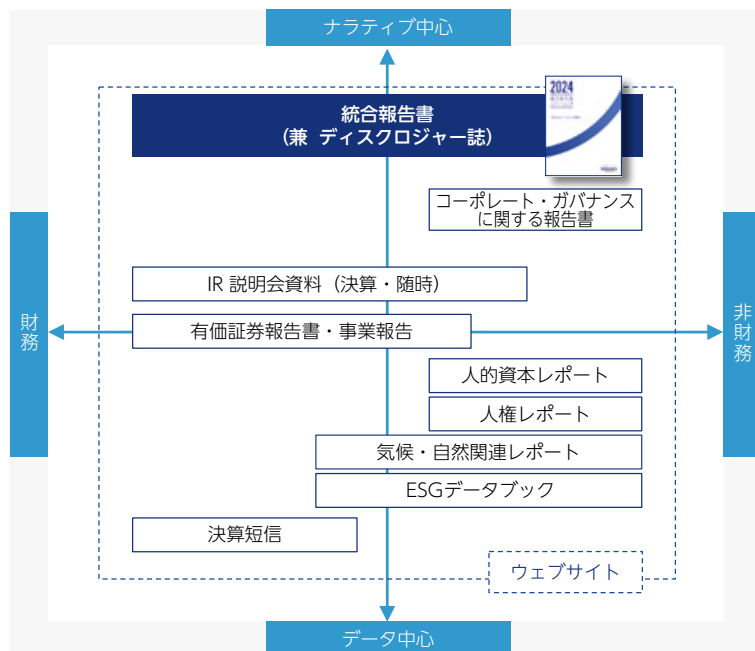
統合報告書本編2024年版の構成

『トップメッセージ』のあと、『〈みずほ〉の価値創造ストーリー』において、国際統合報告フレームワークを参照した、「価値創造プロセス図」とその各要素（インプット、マテリアリティ、経営戦略と事業活動としての中期経営計画、アウトプット／アウトカムとステークホルダーとの関わり）を説明します。続いて『価値創造のための事業戦略』としてステークホルダーの関心の高いテーマと事業ポートフォリオを説明し、最後に『価値創造を支えるガバナンス』を説明する構成としています。

参照 ガイドライン	●IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」（2021年1月改訂版） ●経済産業省「価値協創ガイダンス」2.0（2022年8月公表）
報告対象	期間：2023年4月～2024年3月（一部、2024年4月以降の情報を含みます。） 範囲：原則としてみずほフィナンシャルグループおよび子会社・関連会社
発行時期	2024年7月

開示書類の体系

開示書類の体系については、下の図をご参照ください。情報開示関連規制等やステークホルダーのニーズ等に従い、随時見直します。財務と非財務情報を統合的に、かつナラティブ中心に説明する統合報告書に掲載しきれない詳細情報は、それぞれの領域・用途ごとの開示書類に掲載されていますので、ぜひご活用ください。



CONTENTS

トップメッセージ

- P.5 CEOメッセージ
- P.13 CFOメッセージ
- P.19 エンティティ長メッセージ

〈みずほ〉の価値創造ストーリー

- P.21 価値創造プロセス
- P.23 価値創造のための資本
- P.25 マテリアリティ
- P.27 中期経営計画の概要と進捗
- P.37 財務・非財務ハイライト
- P.39 社会のなかの〈みずほ〉
- P.41 鼎談 求められるサステナビリティ

価値創造のための事業戦略

- P.45 人材と組織
- P.57 サステナビリティ
- P.67 デジタルトランスフォーメーション
- P.71 事業ポートフォリオ(カンパニー別事業戦略)

価値創造を支えるガバナンス

- P.79 コーポレート・ガバナンス
- P.93 リスクガバナンス/サイバーセキュリティ
- P.97 コンプライアンス
- P.99 お客さま本位の実践

データセクション

- P.101 11年間の主要財務データ
- P.103 2023年度の振り返りと分析
- P.105 会社概要・外部評価